光

第二十二輯

大正十二年四月

◇社會問題と宗教の態度……中桐確太郎

◇實業と奉仕の觀念……鈍牛

◇光化運動の提唱……八田勝三

◇托鉢(個人的祈禱)宣光社(集團的祈禱)光化運動(社會的祈禱)……松下吉衞

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

◇冬から春へ……鈴木五郎

◇空に指さして書く……愚學

◇裸人のたどり……まつしたきちゑ

◇一燈園日記抄……藤田生

◇三通りの生活……西田天香

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹告

一 本誌の殘本第三號以下全部、多少づゝありますから御希望の方はどうぞ御申越し下さい。

一 讀者諸兄姉にして御住所變更の際は是非御通知願ひます。

一 集金郵便は郵便局の極遠い處の方の外は、他に餘儀ない事情のない限り、成るべくお避け願ひ度うございます。

一 御送金は成る可く振替をお使ひ下さい。又普通の爲替の場合は書留にして頂きたうございます。

一 御前納くださつた誌代が切れた時には、その旨申上げますが、猶御送金のない場合は、甚だ勝手ですが、集金郵便を差し上げることにいたしますから、豫め御許しを乞うておきます。

一 本誌は現在、四千部、刷らせてもらつてゐます。基礎を堅める爲に、許されるなら、あと千名の讀者諸兄姉を惠まれたいのです。もし本誌のやうなものでも幾分か道のお役に立つと思召しの方は、どうぞ御知合ひに本誌を御紹介くださるやうお願ひ申上げます。

一 全國各地に於ける『光の友』の機關誌として、本誌をお使ひ願はうと存じますので、どうぞ御動靜を

東京市外上戸塚五八〇玄光社內松下吉衛宛

に御通知煩はしたう御座います。

京都市柳馬場三條下ル

宣光社

振替大阪五九八三九

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

社會問題と宗教の態度

中桐確太郎

左は或る宗教團體の講習會に於て致しました私の講演の一節で、曾て本誌に掲げました『愛に關する一考察』以下數篇の拙稿と關聯いたしてをりますものです。御參照下さいますれば仕合はせに存じます。

一　社會問題成立の根本

社會成立の本義は私がたび〳〵申上げました通り、(一)人々相愛の基礎の上に、(二)各人自由の要求を滿足せしめんとするにあると思ひます。自由とは天賦の性能を活動發展せしむるの自由でありますが、もし人々相愛しつゝ互にその天賦の性能を自由に活動發展せしむることが出來ますならば、それは即ち天國淨土であります。尤も一切他と一體たるの靈的體驗を有しますならば、此世は此儘天國淨土であることを覺することが出來るのでありますから、さういふ人に取つては問題はないのでありますが、併しながら此の如き體驗を有するものは、その數甚だ尠いのでありまして、愛は甚だ稀薄に、自由の要求は滿足せらるゝこと甚だ乏しく、此の世にはなやみが充ち滿ちてをるのであります。なやみにもいろ〳〵ありますが、就中根本的なるものは生活の不安に伴ふなやみでありまして、その他のなやみはこれによりて生じ、若しくは之によりて色づけられてをると見ることも出來ます。以下なやみとして申上げます時、主として此生活問題に伴ふなやみを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

意味しますが、此なやみに對する解決の試みが組織化せられて一大運動となつたのが所謂る社會問題（勞資問題）でありませう。

前にも申しました通り社會問題に關しては、私の研究は殊の外未熟でありまして、諸君の前に申述べる資格は甚だ乏しいのでありますが、此道に至り深き先輩、學友の講述によりて愚見を申上げますれば、現今社會問題の成立の根本は社會成員中に、次ぎの二種の階級が發生したる所にあると思はれます。

その一は、物質的要求・精神的要求（即ち性能活動發展の要求）を滿足せしむる方便（主として資本）を不正當に所有し、且つ之を專用する階級（所謂特權階級、資本家、金閥、有てる者）

その二、此の如き特權を有せず、そのまゝでは絶望的なる不公平に對する憤懣を懷き、且つ反抗を敢てし得る力量の自覺を有せる階級（無產階級、勞働者、所謂プロレタリアート、有たざる者）

勿論、有つ者と有たざる者との差別は人間の歷史ありて此の方、存在したことであり、また將來とても、永劫に存在するとも思はるゝ事實であります。有たざる者がその有たざるがために生存欲を脅威せられ、反動の極、自我の意識を覺醒し反抗の氣焰をあげたることは歷史上にも決して無いではありません。否自我の主張、人格の尊重は人類本有の光明でありますから、種々の事情によりて屈折はしながらも、それ〴〵の色彩を放つてまゐりましたことは當然ありうべきことであります。然しながら、それにしても今日の如き大問題とはならなかつたやうであります。然るにこれが今日社會組織の根底を動かしつゝある大問題となりましたのは、經濟界の變遷に伴ふ資本の增大、その偏頗なる分配によりて來る刺激と逼迫とが甚だしく感ぜらるゝやうになり、且つ近世の主我的精神が歷史未曾有の旺盛を極むるに至つた上に、更に有たざる者の方の側で、有つ者に對して抗爭を敢てし得る力量の自覺が強く明かになつたからでありませう。そしてまたその力量の自覺が強く明かになりました原因は、產業改革の結果、大工場が出來、有たざる階級の人が多數になり且つ同じ場所に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

群集し、共同一致の擧動に出づることが能るやうになつた所にあることも明かなることであります。

此の如くして有てる者と有たざる者との兩階級のものは相對峙して相鬪爭することゝなつたのでありますが、有たざる者の方にては生存欲を根底とせる自我の認識、それが道德的要求化したる人格尊重の念、優越欲の動態たる競爭奮鬪心、それに加へて多數に基づく力量の自覺を以てしてもなほ、有てる者の階級の根底牢乎として搖がず、その倒潰容易ならぬものがあるやうであります。それはなぜでございませう。

二　有てる者の強固なる理由

有てる者の依つて立つ地盤が中々に堅固であるわけは、人心の深き要求に根ざしてをるものがあるからであると思ひます。假りに三つにわけて見ることが出來ませう。

第一、優者に對する尊敬　人の心には己れより優れし者に對して尊崇する念、所謂る英雄崇拜の心が自然に存在してをります。人間の心理的過程の中には何物に對しても尊崇の念をいだかざる時期もあるのでございますが、所謂る Nil admirari は寧ろ病的變態でありまして、自然の人情は腕力（武力）に於て勝される者に對し、腦力（知能）に於て秀でたる者に對し、殊に靈力（所謂、人格、その中心精髓は仁愛にあるのでありますが）に於て優れたるものに對しては尊崇敬愛の情をいだくのが常であります。そしてこれらの優者に對しては特に多く所有するを容すの傾きがあります。優者が自から多くを貪ぼる場合には流石に快しとせざるものがありましても、然らざる場合には進んで多くを與へんとするの情があります。かゝる性情の起原を強者に媚びんとする卑劣なる行爲に歸すべきか、或は優者の必要に應ぜんとする敬愛の發露とすべきかにかゝはらず、優者が多くを所有することに對しては、さして不平を懷かざるを人情の常としてをります。

第二、道德的要求の轉移　優者は權力の地位に置かるゝのが常であります。權力は團體生活を維持するには、或る程度

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の精神的生活の時期に於ては必要であります。そして團體生活維持は道德的要求の一要素でありますことは前に述べた通りであります。此の團體生活維持に伴ふ道德的要求は轉移して團體生活維持に必要なる權力、從ひて亦その地位に置かるゝ者に對して相當の敬意を有すべきことを要求するに至りました。專制々度の下に於て此の要求は不合理なる程度にまで誇大化せらるゝことが常でありますけれども、權力の地位にあるもの（そして種々の因緣よりして有てる者）に對して特殊の認識を與ふべしといふ道德的要求を感ずることは自然の人情であります。そして道德的要求が持つてをる特異の權威につきては、これも前に申上げた通りでありまして、此の絕對無上の强迫的權威に裏づけられてをるのでありますから、有てる者の地位は中々に堅固なものがあるのであります。しかるにこれらに附加へて更らに之を强固にせしめますものは

第三、所有欲の固執であります。即ち優者に對する尊敬、道德的要求の權威などを背景とし後援とし、またはその衣に隱れて自己の所有欲を主張し之に不當に固執するのであります。ラッセルなども申してをらるゝやうに、所有欲は創造欲と共に人間本能の一つであります。それ自身に於ては何も問題はないのでありますが、只それに固執する時に種々の葛藤が生じ來るのである。然らば所有欲の固執は何故に存するのであらうか。所謂る人間の意志の如何ともすることの出來ない物質的原因の存することも爭ふべからざることでありませうか、しかしながら更に深き原因は人間の根本的性能に存することであるやうに思はれます。即ち先づ優越者たるの地位を外面的に維持せんとすることがその一つでありませう。優越者はおのづから多くを所有するの地位にあるものなることは前に述べた通りでありますから、眞に優越者ならば必ずしも固執する必要はないのでありますが、眞に優越者ならざるものが何等かの事情によりて優越者の地位に置かれたる場合に、それを强いて維持せんとするに至るものであります。これは人間自然の性情に具はる優越欲の變態であります。何故に此の如き變態を生ずるに至つたかは別に考ふることゝいたしまして、變態ではありましてもその根底には人間本具の優越欲が存することは認めねばなりますまい。次ぎに精神的・物質的要求を滿足せしむる方便をます〳〵多く、且つ永く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

所有せんとすることはます〳〵増進し行く欲望要求に應ずるものでありまして、人間の本性に具はる向上欲の發露といふことを得るのでありませう。また第三には他よりの奪取を怖るゝが故でありませう。これは優越欲を傷つけ、向上欲を沮み、更に自己の存在を危うするが故であつてつまり自己の生存欲の主張に外ならぬのであります。それ等の根本性能に基礎を有する所有欲の固執があり、自分の地位を守るのでありますから。有てる者の地位は中々に堅固である筈でありますが尤も以上掲げました三つの事情のうち前の二つ、即ち優者に對する尊敬と轉移せる道徳的要求とは精神的に重きをなしてをるものでありまして、いはゞ現狀を支持する二本の大黑柱のやうなものであります。是れが取のぞかるゝ時には所謂有てる者の地位は決して堅固なものでないことは露國に於ける最近革命に徵しましても明かなることでありませう。

しかし普通の場合におきましては此等二本の大黑柱はともかくにも存立してをります。有てるものゝ地位も從ひて安固の狀態を呈してをりまして、有たざるものとの鬪爭は此儘にては容易に止むべくも見えず修羅の巷は無限につゞくでありませう。

三　自然的現象の問題化

唯物史觀の立場にたつ人の意見によりますれば、此の如き兩階級の鬪爭は、資本主義の組織を崩壞せしめて無階級無鬪爭の理想的社會を現出せしむるに必然の過程でありますので、從つて之れが實現を成就するには勞働階級の意識的努力を必要とするわけであります。此の如くして理想の社會が現出するかも知れませんが、しかし勞働階級、即ち有たぬ者のさうした働らきは、やはり優越欲、向上欲、殊にセツパつまれる生存欲を以て根本の動因とするのでありませう。此の根本動因は資本主義の組織が崩壞し得た時に果して消滅し去るものでありませうか、もし消滅しないとするならば無鬪爭といふことは果して現出することを得るでありませうか。私共の考ふる所によりますれば生存欲とか、向上欲とか、優越欲と

かは、人間本有の根本性能でありまして、資本主義が成立つた結果として現はれたものではなく、却つて資本主義を成立たしむるに至つた主もなる要素の一つであると申すべきであります。もしそうだとするならば、これは資本主義を滅ぼすことにより消滅するものではありますまい。もし消滅せないとするならば何かほかの事情の加はらざる限り爭闘は無限につゞくものと見なければなりますまい。しかしかゝる根本性能に基づいて起る處の爭闘は自然の結果でありまして、植物界にも動物界にも行はるゝ所の現象であります。それ自身に善惡はなく、道德を超越してをるものと私は思ふのであります。それを絶滅せねばならぬといふこともなく、また絶滅し得べきものでもありますまい。

然るにこれが人間界の問題となつて參りますのは此の生存欲、向上欲や、優越欲が實現せられんとしたる場合にそしてその結果として爭闘が行はるゝ場合に、他のなやみを惹起し、そのなやみを顧慮せないで敢てするといふ所に存するのでありませう。所謂る不正當なる所有、專用（即ち壟斷、搾取、掠奪など）といはるゝに至るのがこれであります。

然らば何故に他のなやみを犧牲にすることを敢てするのであるか。蓋しさうせねば自分のなやみ――現實的の若しくは豫想的のなやみを救ふことを得ぬからでありませう。所謂る忍びざるの心は人皆これ有りでありますが、それを忍んで敢行するのは、背に腹はかへられぬからでありませう。かくて現今の世相は自分のなやみから救はれんがために、他のなやみを犧牲にすることを顧慮することは能はず、互ひになやみを惹き起し合ひつゝ苦患、懊惱ますます、つのりゆき紛爭葛藤たゆることなき狀態なりといふべきでありませう。

四　なやみの本質及び其の根本原因

さて然らば此のなやみは如何なる事情によりて生起するのであるか。なやみなるものは、滿足せらるべき筈の欲求が滿足せらるゝ望みなしと見たる時に感ぜるを常とするやうに思はれます。本來滿足せらるべき筈がないと認むるものに對し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ては、人はなやみを感ぜざるを常といたしてをります。とうてい出來さうもないことには人は欲求さへ懷くものでありませんから、なやみの起りやう筈はありませんが、また縱ひ或欲求を一時懷きましても、とうてい出來る見込はないと見定めたる時は、所謂る心に諦めがつきまして、なやみは起らず。起りましても、すぐ消え去るのを常といたしてをります。因果の道理を信じ、定運宿命を信ずることを得ればなやみは消え、もしくは薄められ、又は慰めらるゝものであります。なやみを惹き起す事情の中には、その懷ける欲求が滿足され得べき筈のものと認むるといふことを先づ第一にかぞへねばなりません。有たざる者が、有てる者に對して同じく人間であるといふ自覺がありましても、抗爭し得る力量を感ぜざる以前には、なやみはさほど甚だしくなかつたかも知れませんが、力量の自覺が明かになるにつれ、そしてそのまゝにては自分も人間として滿足し得らるべき欲求が滿足せられないと見ました時、なやみは一きはに強くなつたことは爭ふべからざる事實でありませう。

尤も、直ちには滿足せられない欲求でありましても、相當の方法を立て順序を踏んでまゐる時は滿足せらるゝ望なきにあらずと見ました時はなやみはまた幾分薄らぐものであります。經營劃策の興味、奮鬪努力に伴ふ快感といふものに慰められて、なやみはその苦味を失ひ去るを常とするのでありますが、しかしその滿足せらるべき筈の欲求が如何に努力しても到底滿足せらるべき望みなしと見たる時は、そこになやみを感ずるものであります。その滿足することを得ざる原因が自己にありと見ました時は、羨望・嫉妬の念が生じ、その原因が他者に存すと見ました時に、憤怒・憎惡が起るのでありますが、これ等はいづれもなやみを心に惹き起すものであります。尤も不滿足の原因が自己の力足らざるにありと見ました時には、なやみは幾分か稀薄を感ずるのでありますが、それが他の妨碍にありと見ました時にはなやみは一きは强烈なるを感ずるのであります。是れは滿足せらるべき筈といふの意識が明かになるのと、もう一つは自他の區別が著るしく感ぜらるゝによるからでありませう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

以上は自己の欲求が、他人に於ける達成の事實によりて惹き起されたる場合に於けるものであります。即ち他者が其精神的、若しくは物質的要求を滿足せしめつゝある實際を見て、自分も同樣なる境遇に達したしとの欲求を懷くに至つた場合に就いて申したものでありますが、人間には必ずしも他にあらはれたる事實によりてのみ惹起されたるものにあらざる欲求があります。所謂る煩惱無盡で、欲求は無限であります。人間は未だ曾て達成せられざるものに向つて進み上らんとするの性能を有するものでありまして、欲求は無限に向上發展せんとするものであります。即ち向上欲・優越欲でありますが、此等の欲求に應じて（即ちそれを滿足せしむるに便なるために）具體的形相を取つて想念界に現はれたものが理想であります。乃ち理想を追うて無究に進まんとするが人間の生命であると申さるゝ所以でありますが、人間の抱く理想なるものはその人々の想念によりて種々に賦彩せられて、決して一樣ではないに係らず、その根本生命は至善、至眞、至美至利、等宇宙の實在に外なりません。そしてそれ等を具體的に顯彰せんとするのが萬有の生命でありますから、理想なるものはその神髓に於て實現せらるべき筈のものたるのであります。故にこれが實現せられぬ時は、そこになやみを感ぜしむべき必然性を有してをるのであります。

そしてまた此の如き無限性を有する理想なるものは、肉體にのみ限られてをる我の到底悉く實現し得ざる所であります具體化はしましてもその不完全は更に新しき理想を生み出すものでありますから、理想を追ふのは、太陽をうしろにして自分の影をふむ如きものであります。太陽を背後にしてをる限り而して自分なるものが透明體にあらずして、影坊子を作りつゝある有限なるものである限り、理想なるものは實現せられぬものともいはれます。こゝに於て無限の理想を追うて進展しつゝある人間の生命にとりてはなやみは離るべからざる關係を有するものでありまして、此の世は此の點より見て必然的苦惱の國土であるといはねばなりません。

以上述べました所から見まして此の如き苦惱の根本的原因となつてをりますのは、自我といふものを肉體、精神に限る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

といふことにありと申すことが出來ます。自我といふものを以て單にその各自が有する身神だけのものとする時、無限に發展し行く理想實現の欲求が滿足せられざるはいふまでもなく、他人の達成せる程度に達するだに容易のことではありませんことも明かなることでありませう。

しかしながら更に考へて見ますに、自我を單に自分の身神に局限するといふことは、自我本來の無限性に對する否定でありまして、一切他と本來同一體であり、無限そのものである處の眞我が、不完全にして狹隘極まる身神に外ならずと認定せらるゝ時、眞我は限りなき淋しさと、不平不滿とを懷かざるを得ぬのであります。何故に本來無限なるものが有限視せらるゝかは前にも一寸申しました通り人間知識の致す所であると思ひますが、その如何なる原因によるにしましても、かく局限して認識し、それが他人の妨害や、事情の障碍等によりてます／＼固結し、それに對する執着即ち我執が濃厚になつて參ります時眞我のなやみは一層に加はり行くのでありませう。これもまた滿足せらるべき筈の欲求が滿足せられざることの一種であつてしかも他の欲求の不滿足に比して一層根本的のものでありませう。他の欲求不滿足に伴ふなやみは此のなやみに裏づけられ、之によりて濃化せられ、强化せられて參ります。かくの如く考へて參りますと有てる者にも、有たざる者にも存する一切のなやみの基調となつてをりますのは、自我を身神に局限しそれに固執すること即ち我執より來るのであり、そしてまた生存欲や、向上欲や、優越欲等の根本性能を種々に變化せしむるものも、此の我執であることは察するに難くないことゝ思ひます。而して此點は社會問題（勞資問題）の起源を生活問題にありと見る時、一層然るを感ぜしめらるゝのであります。何となれば生活問題とは要するに肉體的生命の維持に對する問題に外ならぬからであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

此の如き次第でありますから、もし一切他と自分とが一體たるの體驗が出來、我執が破れますと世相は全く別なる趣きを呈し來るのであります。勿論個々の欲求の不滿足は存するに致しましても、その不滿足は一種特別の光に被はれ、個我に即してなほ個我に執着することなく、生存欲、向上欲、優越欲等に伴ふ爭鬪もその儘、圍碁や、將棋や、カルタや、庭球、野球等の競技と一般、一の遊戲化して參るのであります。なやみはあるにしても遊戲局裡の勝敗に伴ふなやみたるに過ぎず、妙へなる平穩和悅の光に融化し去るのであります。遊戲三昧の氣分とは蓋しかういふものであらうと思はれます

前にも申上げました通り一切他と一體たることを感じます時は、自我は無限の生命そのものとなるのでありまして、生死を超脫するのでありますが、幼少の兒童には死といふ觀念がないのを常とします。ヲーヅヲースの『我等は七人なり』と申す名高き詩はよくそれをあらはしてをるのでありますが、死を知らぬ兒童に取りては一切が遊戲であります。遊戲は兒童の生命なりと申しますが、兒童には實になやみは無いやうでありまして、即ち天國の民といはるゝ所以であります、大人にいたしましても生活問題を超越してる間に於てこそ遊戲としての價値があるのであります。遊戲を生命の方便としてをる所謂る藝人にとりては、遊戲はその眞味を失ひて寧ろ苦痛の種子でありませう。從軍の士が修羅の巷に居り强大の敵を前にしてなほ遊戲の氣分にあることの出來るのは死は寧ろ定命として問題にならず、或る意味にて生死を解脫したからと見ることも出來ませう。西行法師は『世をすてて身はなきものと思へども雪のふる日は寒くこそあれ』と歌ひました芭蕉はそれに附加へて『花の降る日は浮かれこそすれ』と申したとかいふことでございますが、かゝる遊戲三昧の氣分は世をすてゝ身はなきものと思ひ得た所にあるのでありませう。曾て福澤諭吉翁は『人生如兒戲』と詠ぜられました。それを見ました當時私は何だか甚だ不眞面目なることのやうに思ふて飽きたらなく感じたこともありますが、至人の境地には一面此の如きものもあるのであることを今に於て幾分領解することが出來るやうに思はれます。

此の如く申しますならば人或は非難して、そんなことをいふのは、畢竟生活上のなやみを本當に感じたことがないから

である。世のなやみを血の涙を以て味つたことがない、世間知らずのノンキなるたはごとに過ぎぬと申さるゝかも知れません。しかしこれは私の如き未熟者の獨り感じ得る所であるのみならず、悲慘なる逆境にさいなまれ、世の辛酸を嘗め盡し、そしてそれより超脱し得たる者にも感ぜらるゝ所であり、否却つてかゝる人こそ此の遊戯三昧の深き趣きを味はひ得らるゝものなることは史傳上の事實であることと思ひます。

そして此の如き遊戯三昧の氣分は、一切他と一體たるを體驗する所から生ずと私は信ずるのでありますが、一切他と一體たるの體驗は即ち大愛の根本要素であります。此の大愛が光被して參りますと世の紛爭葛藤はそのなやみの根を絶ち、縱しやなやみは存在するともなやみながらに、一種の趣きを添へ、諸種の賦能は自由自在に活動發展することを得ますので乃ち此の世は此のまゝ天國淨土と觀ぜらるゝに至るのであります。

六　社會問題の根本的解決と宗教

以上申述べてまゐりましたやうな次第でありますから、社會問題（殊に勞資問題）が世のなやみに對する解決の試みとして出發してをる限り、そしてなやみなるものは我執の結果である限り、社會問題に對する根本的解決は我執を取り去るにあると思ひます。我執の纏縛を脱せざる限り、階級鬪爭はいよ〳〵我執をつのらせ、なやみを増加するばかりでありませう。尤も生活問題に關するものゝ中には事甚だ殺急、毒箭骨に徹せるが如き場合も尠くないのであります。かゝる場合には毒を以て毒を制するの外はありません。即ち我執の囚はれより脱し得たる人が假りに我執の武裝をなして他の我執を打破することも、所謂る逆縁の權道として許さるべきでありませう。しかしながらこれは寧ろ政治的行動であります。宗教家の取るべき順道としては更に根本の處に手を着くべきであらうかと思ひます。然らば如何にすべきでありませうか。

宗教も社會文化の事象の一つであります。宗教家なるものは、社會に於て其の分擔すべき使命を有してゐります。即ち

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

世のなやみの種子である我執の繫縛を打破して、人をして自他一體觀に任せしめ、以て凡ての人をして各その天賦の性能を自由に活動發展せしむることを得るの機會を與へんとするにあるのでありませう。別語を以て申しますれば愛を此世に惹き起すことによりて天國淨土を建設するの基礎を定めんとすること是れ宗教家の職分なりと思ふのであります。

我執を制し愛を奬め、賦能活動發展の自由を保護するの任に當るものは政治の事でありませう。これ等の保護の下に相輔け相依りて賦能を活動發展せしむるはその他の文化事業でありませう。而して此等の基礎事業に從事するのが宗教家のことであると思ひます。

七　宗教家の取り來つた方法

宗教が是迄取つてをりました方法を見まするに大要二つに分けて見ることが出來るやうであります。餘り思はしくもありませんか、その一つを假りに教導と名づけ、も一つを化育と申しておきませう。

（一）教導　と申しますうちには説教を數へます。之は理解心に訴へてある境界に人を導かんとすることでありまして、訴へて來るいろ〳〵の煩悶に對して之を説き諭したり、またこちらより進んでその人の現に立ちてをる立場の永住の地にあらざる所以を警告し、或はその導き行かんとする境界の優れる點を示し、またはそれに到達すべき道などを教ふるを主とするのでありますが、理解心の要求を滿足せしむるの結果はその智識界を整理統一することゝなり、かくて疑惑より生じ來るなやみを止むることが出來、また智識の活動に伴うて來る自他の隔離をも防ぐことが出來、從つて自他一體感を間接に助くるのであります。これ宗教家の此の方法を採用する所以でありませうが、しかしながら智識はその性質として改進動搖するを免れざるものでありますが故に、再び疑惑のなやみや、自他隔離の患が伴ひ、しかもなほ智識が固定すればそこにまた一種の執着が生じ、種々の弊害相踵いで起り、宗教的生命も沮喪するに至るものでありまして、宗教にとりて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は智識は誠に厄介なるものであります。殊に徹底せる自他一體感は智識その活らきを止むる所に覺せらるゝものであります所から、宗教的生活の過程に於ては一まづ智識を擯無し、その葛藤から擺脫するを要するのであります。禪の止觀辯道は此の最も露骨なる方法でありませう。信仰と申すもつまりは是に外ならぬのでありまして、これは何等かの形式に於て殆んどすべての宗教に必ず採用せられつゝあるやうに思はれます。即ち理解によらずしてなす教導の一法に外なりません

(二)化育　宗教家の採つて參りました方法にはまた、貧窮になやんでをる者を助けたり、病氣で苦しんでをるものを治癒すことに力を盡したり、(また學校を建て、子弟を教育したりすることもございますが、これは寧ろ先きの教導を主とするのでありませう)、その他いろ〳〵の苦惱に陷つてをるものを救濟することに骨を折ることが多いのであります。所謂る社會的事業として近來は殊に大規模に行はるゝやうになつてをります。これは本來は慈悲哀憐の情止み難くして起つたものでありませうが、之を受くる者の感謝の情を利用して、宣教傳道の方便とせられてをることも少くないやうであります。また受くる方でも他の好意に乘じて狡猾に之を利用することも往々あるのでありませうが、しかし大體の上より見ますれば與ふる者は(その動機の中には芳ばしからぬものが存することによりて濁つてをりましても)、有意識的若しくは無意識的に存在してをりまする、自他一體感を具體化することを得てこゝに一種の悅びを味ふものであります。所謂る與ふるものの幸ひがあるのでありませうし、また受くる方に致しましても(時としては利用してやつたといふやうな考へによりて不純になることはありましても)、やはり欲求せるものが與へられたので幾分なりとも感謝の念が中に湧くことでありませう感謝の念は自我の堅殼を中から破るの力があるものでありまして、自他一體を體驗せしむるものであります。人生知己に感じ、功名も生死をも犧牲にすることを厭はざるが如き愛をも生ずることは少くないのであります。かくして與ふる者の幸福と受くる者の感謝と光々相融合して、こゝに一切他と一體たるの妙境も開展し來ることになります。これ宗教家が自他一體感化育の方法として採用する所以でありませうが、これ等は寧ろ稀に存する理想の境であります。多くの場合に於

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ては兩者に存する不純の分子によりて、理想通りの境地には達し得ざるを常といたします。また肉體及び精神の力量は有限なるものでありまして、所謂る慈善・救恤など丶いふ事業の範圍は到底呴濕の慈悲たるに過ぎません。一切衆生のなやみをどうかせねばならぬと痛切に感ずる宗教家は聖胎長養など丶いふ名に隱れて、深山幽谷に避けたり、傖夫乞介の姿に韜晦したりすることもま丶あるやうに思はれます。即ち所謂る根本祈禱に入るので。之を祈りの生活と呼ぶことも出來るかと思ひます。これは即ち白熱の極たる寂光の化育法であると申して差支へありますまい。

八　宗教家の社會問題に處すべき態度

宗教家の採り來つた方法は大概以上の二法にまとむることが出來ると思ひます。社會問題に對する場合において も畢竟するに以上の二つの外には出でないと思ひますが、社會問題の究竟は要するに有たざる者の側に存する經濟的事情の刺戟と逼迫と、主我的精神の覺醒と勃興とによりて一きは强烈となりたる生活の安定及び個我人格の認識に對する要求であり、有てる者の側に存する所有欲の不正當なる固執と傲慢とに存するものでありますから、社會問題の根本的解決に從事せんとする宗教も之に應じて特殊の態度を有すべきであらうと思ひます。先づ第一に人は生きねばならぬのであるが、資本主義制度の下に當てにならぬ慈惠溫情などに依賴せず、確かなる制度の下に安定せる生活を保證せられねばならぬといふ主張に對して宗教家たるものは、神に養はれ佛に委ねたる生活の最も安定なるものであるといふことを自身に實證せなければなりません。神に養はれ、佛に委ねたる生活と申しますのは、宗教的體驗より出で來りました懺悔の念即ち此世に存する罪惡苦患に對して責めを負ふ所の懺悔の念によりて、他に奉仕する所謂る托鉢の生活（此事に關しては本誌第十八號所揭の拙稿を參照せられたし）をなし、かくて祈り出せる愛の供養による淨財にその生活を委ねるの謂であります。此の如き生活に安住することが出來ませず、絕えず生活問題になやませらる丶か、若しくは生活問題になやまさるべき憂のあると

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

狀態になりましては、知識の葛藤に再び囚はれるやうにもなり、隨ひて自他一體の靈的體驗もつひにその光を晦らまされ宗教家としての活動がその生命を失ひ、資本家におもねり、權勢に妥協せざるを得ざるやうになるでありませう。神の國とその義とをのみ求めて安んずることが出來ず、一切を佛に委ぬべき筈のものが、現世の生活を自力にて營み、室內に於て徹したる無が實際生活の有を裁斷することを得ずして狼狽する如きことにも立到るでありませう。かういふ有樣では『宗教は支配階級の道具であり、社會建設の邪魔物、人類向上の妨礙物に過ぎぬ』と非難せられても致し方はないのでありますまいか。眞に天國淨土建設の基礎事業に從事せんと欲する宗教家は先づ自家の生活問題を解決してのち、社會問題に對せねばならぬ筈でありませう。即ち神に養はれ佛に委ぬる生活が最も安定なる生活であるといふことを自家の生活に實證することが、第一に肝要であらうと思ふのであります。

　しかしながら今申しました神に養はれ、佛に委ぬるの生活と申しましたのは、懺悔奉仕の托鉢生活でありまして、その實他の愛に依賴してをる乞食の生活に外ならぬ。かくては自我の品位を傷つけ、人格の尊嚴を瀆し、却つて有てる者、支配階級の橫暴傲慢をつのらすのではないかといふ批難も或は被むるかも知れません。しかしながら前にも述べました如く眞正の自我、人格なるものは、一切他と一體たるの體驗に伴ふ生命感が個體に即して新に生れ來る處に感ぜらるゝものであつて、その生命たる不二の光明は肉の生死、世の榮辱等によりて毀損せられ、汚瀆せらるゝものでないとするならば、此の自覺に立つ宗教家は、托鉢の乞食生活をなすことによりて屈辱を感ずるものではないと思ひます。のみならず眞正の自我の品位に立ち、人格の尊嚴を內に藏する時、それ等の光は王侯貴族や、百萬長者の胸臆を射り、彼等の驕傲の首をしておのづから其前に低れしむるに至るものであることは、古來眞正の宗教家に對する帝王の態度に徵しても疑ふべからざることでありまして、その實例は殆んど枚擧にいとまないほどであります。懺悔奉仕の托鉢が『資本家、權勢者等の良心にまで達せず、之を威嚇せしむることを得ず』との批評もあるやうでありますが、それは托鉢そのものゝ罪ではなくして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

托鉢者の力足らざるの致す所であり、また反省が深刻ならず懺悔が徹底せざるに依るものと思はれます。

但し理想的人物の缺乏は凡ての方面に通じて感ぜらるゝ所でありまして、決して宗教界をのみせむべきものではありません。これは御互に自から督勵し、憤發努力して、修養を積み行かねばならぬ處であらうと思ひますが、今申しましたやうな境地は宗教家として努めて達すべき處であり、而してまた、それは人格の認識に對する要求と決して乖離するものでないことを信ずるのであります。

以上申上げまして生活の實證と、その立場に對する確信とは共に現今社會問題に對する宗教家の態度として肝要なるものであらうと思ひます。此の態度を持してさて如何なる方法によるべきか。畢竟するに前述の二種の方法に出でないことでありませうが、その形は順縁逆縁、一定すべきでなく各その力量に從ひ、時と處とによりて其樣式も種々に異なるべきでありますから、今一々こゝに申上ぐべき限りでもないかと思ひます。只一つ申添へたい事は、一宗一派内には有てる階級と有たぬ階級とを含んでをるのを常と致します。故に其兩者の間に起るべき問題を先づ解釋するが、各宗派の宗教家が着手すべき第一のつとめであらうと思はれます事であります。

× × × ×

以上概念的の言葉をつらね、生硬未熟なる意見を申上げまして誠に相すみません。いつもの經驗の通り、申上げ終つてのち物足らなさの思ひに堪へません。いひ遺した事に對しては御諒察を頂き、間違つてをることに對しては御批正をたまはらむことを切に願上げます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

實業と奉仕の觀念

鈍牛

近年、社會奉仕と云ふ語が、大分、新聞や雜誌に見え、世人の話題にも上るやうである。又奉仕隊とか、社會奉仕團など云つて、風俗の改善に其他の社會教化の事業に携はる團體も出來て居るやうである。利に敏い商人は、社會奉仕的特價販賣など云ふ新聞廣告やビラ等を振り撒いてゐる。今や社會奉仕と云ふ事は、近來の流行物一つとなつた。の薄つぺらで、上は辿りする我社會では、眞劍な魂の叫びも、一般の流行物と等しく、眩まぐるしいほど、遷り變つて、お終ひには、淺薄な座興に落ちて了ふのが常である。奉仕の觀念も、恐らく、同一の運命に逢ふのであらう。

○

奉仕とは、他に仕へるの義で、色々の意味に解せらるゝが、所謂奉仕の眞義は、神佛と世間一切への奉仕であるべきだと、私は思ふ。我々は、生物であるから、其衣食住の資を獲る事を欲求するのは無論であるが、古今東西の聖者が修證されてゐる通り、我々はパンのみで生きる事は出來ない。自由とか、愛とか、永生とか云ふやうな、精神的願望が、心のどん底から湧き出で來る、在るが儘の不完全な社會では、自由を得んとすれば、愛を害ひ、愛を徹底せしめんとせば、自由に躓く。かくて人は皆、世の儘ならぬをかこつのである。天國淨土に於ける平安和樂の生活を希求し、夫れを地上に築く事が、人類の願求ではあるまいか。天國淨土とは、人類の生活に於て、愛と自由とが渾然融和せる境地を呼ぶ。而して、そは、人が自ら生きんとするの念を斷ち、其生を神佛に委ねて、甦るとき、初めて得らるゝのである。されば、奉仕は、我々の生活の指導原理であり、原動力であるべきだと、私は考へる。殊更らに、一日だけ神佛や隣人へ奉仕するとか、或品物だけ社會奉仕の爲め廉賣するなど云ふ事は頗る不徹底の見解であると私は思ふ。我々の生活の全部が神佛と人類への奉仕でなくて、何であらう？此奉仕の念に徹して、作務に勵むことが、我々の生存の眞意義ではあるまいか。然るに近代人は、生活の資を得る事に沒頭して、生存の眞の目標である奉仕の觀念を忘却して了つた。多くの人は、財寶や、權勢を目當に、突進してゐる。キリストは、二千年前に既に、人は神と寶とに兼ね仕ふる能はずと喝破して、我等の行くべき道を示して置かれた。智慧の果を食ひエデンの園を追はれた迷へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

る羊等は、此目標を見落して、今猶荒寥たる野原に、彷徨してゐるのである。

○

今實業發展の跡を顧みるに、百年前迄は、各家族――各社會も――其生活必需品を自給した。農商工と云ふやうな職業が分れて後も、夫等の人々は、自給自足單位を形ち作る己れの社會へ奉仕した。例へば、村鍛冶が其村人の爲めに奉仕したやうに。工藝技術の發展に伴ひ、所謂産業革命が行はれてから、生產、交易の大組織が生れて、小工業は殆大工業の爲めに驅逐されて了つた。小工業は、其近隣の人々の需用に奉仕したのに、大工業は、顧客生產で、只利益をのみ其主眼としてゐるのである。現代の大工業が、社會に奉仕してる事は、其の小工業の夫れより遙かに大ではあるが、又工業自身の爲め大なる利潤を獲得してゐる事も事實である。かくて、近代の大工業が、其利潤の理論的基礎が奉仕にある事を見遁したるは頗る遺憾の事である。カーライルやラスキンなどが痛罵したやうに、今の工業乃至實業は、儲けんが爲めのみに營まれて、其目的が社會奉仕である事を忘却して了つた。現今世界中が深憂してゐる工業不安の原因は、十九世紀の終り頃起つた實業制度の目的の變遷にありと云ふも、過言ではあるまい。實業制度に於て、奉仕の觀念を速かに復活し、之を第一義とせねば、近き將來に於て、如何なる危機が出來するか逆睹し難い。

中世小商人は、自己の口を糊する爲め即渡世の爲めに商賣をやつた。現代の大企業の經營心理は、營利一天張りであると或學者は云ふ。併し來るべき時代に於ける企業心理は、奉仕でなくてはならぬ、否既に其方向へ轉換されつゝあると、私は考へる。佛聖其他諸宗教の敎ゆる「奉仕の敎義」は、之を企業の經營に採用し來つて、極めて實際的に、又尤經濟的なものである事は、ガント氏の如き老練なる能率技師の言に徵するも明かである（ガント著オルガナイジング、フオア、ウオク參照）吾人は、我企業家が、其企業の目標を、奉仕に置かん事を熱望して止まない。

奉仕の敎義は、永い間、敎會や寺院で說敎された。而して、中世に於ては、一時之が世間の支配要素となつたやうに見えたが、其後各宗派の分列や、敎義言語等に囚はれ、信行を輕んじ、益主智的になつた爲めに、奉仕の觀念が、實生活に於ける支配力を失つて了つた。今や世界の危機は我々に、商業主義の誤りなる事を示し、速かに奉仕の觀念を復活すべきを警告してゐる。寺院や敎會の壇上に叫ばるゝ言語や敎義の奉仕でなく、信行不二の眞の奉仕が我實業界に導き入れらるゝとき、我產業界は再生復活して、面目を一新すべきは明かである。私は、世界の平和は、此道を通じてのみ、招來せらるべきを信じて疑はぬ。

（一二、二、一九）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光化運動の提唱

八田勝三

我のために爭はず、光の下に一切が渾一されんための一方法として、私も玆に光化運動を提唱する。光化運動とは有緣の士及び同人を以て、一丸とする相互扶助運動であるそれは目覺めたる魂の眞に生きんとする必然的交合にして、地上に『愛と自由との王國』を建設せんとする第一歩でありたい。此の事に依て、社會苦斷滅の聖なる願ひが、たとひ幾分でも成就さるゝならば望外の喜びである。

準備

一、光化運動に參ぜんとする同人の具體的相談をなすこと。

一、先づ『光』の讀者の住所氏名を、府縣別に發表して、有緣の士を一般に紹介すること。

一、有緣の士にして、自ら祈りの中心たらんと望まるゝ方は申出でられたきこと。

一、それによりて、光化運動に携はる同人を其地に派遣して同志間の融和を計り、園との連絡をとること。

一、必要ならば簡單なる章を制定すること。

機關誌

一、『光』を最善に活用すること。

從來同人は、一切を成就せんとする本質的欣求の表現をも、緘默裡に封じ込まんとする傾きあり、有緣の士も、普通雜誌の讀者關係に終らんとせるは、遺憾至極である。此際兩者の根本的奮起によつて、光化運動促進の具に利用せられんことを特に祈る。

方法

一、人類愛を基調とし、相互扶助を目的とせる一切の方法。

實行されたきこと。

A. 虛禮癈止、節約日の實施。

組織惡の犧牲となれる氣の毒なる兄弟のため、節約されたるものは、人類愛の名によりて、善用されんことを望む。

B. 囚はれたる差別心の撤癈。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

先づ自己の家庭内にて言葉の使ひわけをやめるこゝより始むること。

C. 不用品の交換及讓渡。

『光』に掲載欄を設け、その便宜を計ること。

D. 奉仕。

其立場にて捧げ得ることより隣人に盡すべし。職業を解放して修得に便ならしむるも可。智識技藝の教授もよし。

E. 『光の友の會』創設。

『光』三月號にて松下兄提唱。

學校、會社、官衙、軍隊等にも同志あらば、各自その中心を設けて祈られたし。

F. 門戸解放。

不用期間中の別莊、必要以外の部屋を解放し、同志の爲に旅宿の便を計り合ひ、又學生等の下宿を引受く。

G. 有緣の士の職業紹介より始めて、消費組合の經營に移る。

商人氣質を離れたる各人の職業紹介(光誌上)によつて相互に利用せられたく、機熟せば、消費組合を設置す。

H. 倍加運動。

I. 住宅組合。――光の村。

J. 政治的結束等。

以上は、入園以來我が胸奥に次第に高まつて來て居た願ひで、『光の友、團結せよ。』この松下兄の申出でが、導火線となつて、遂に迸り出た全人的祈禱の表現である。有緣の士及び同人にして、多少共志を同うせらるゝ方は、直ちに此の具體化に御盡力下されたく、貧しい一文を草して、天香さん始め皆樣の、嚴正なる御批正を待つ次第である。

――大正十二、三、一三、――

御消息は左記へ御願ひ致します。

東京市本鄕區千駄木町一七七　井上範樣方

(電話小石川一九二七)　八田勝三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

托鉢（個人的いのり）・宣光社（集團的いのり）・光化運動（社會的いのり）

松下吉衛

A ヤア

B A君でしたね。隨分お變りですね。路であつたのではわかりませんでしたらう。

A 君は學校時代と殆ど變りませんよ。ドアをあけるとすぐわかつた。

B 何年あはなかつたでせう。コーット、私は十九で中學を出たのでしたから、十六年ぶりですね。

A さうなりますかね。イヤになるな。僕は何にもして居りませんよ。……どなたもまだお見えになりませんか？

B そのやうです。何にもしてをらんといへば私こそおはづかしいです。

A S君からでしたらうか、君が京都へいつて或る宗教團體に加つてゐることを聞きましたのは。今でも御關係ですか？

B エヽ

A 君が宗教家にならうとは思ひませんでしたね。やはり布教でもして歩いてゐるんですか？

B イヽエ。さういふことはしません。私の屬してゐる團體は宗教的なものには相違ありませんが、別に何宗と銘うつてゐるわけではなく、寺もなく教會もなく經典もないのですから。

A 變つた團體ですね。しかし前名ぐらゐはあるのでせう。

B エヽ、いつの間にか『一燈園』といふ名前がつけられてはゐます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

A　ア、、一燈園ですか、西田天香といふ人がしてゐる。一トしきり新聞雜誌でずゐぶん喧ましかつたやうでしたね。……ぢや、君も『托鉢』といふことをなすつてゐるのですか？

B　マアさうなのです。

A　托鉢つてどういふんです？　禪僧のやうにして方々歩くんですか？

B　精神は同じだと思ひます。禪僧のはお經をあげるのですが、一燈園の行き方は體をそのまゝ捧げるのです。その家に病人があつて手が足りなければ看護をさせて貰ひますし、片附仕事があれば手傳はせて貰ひますし、何なりと身に叶ふほどのことは皆樣の要求に應じて奉仕するのです。そして一切の働きを價格にのぼさないのです。

A　さうやつて甲の家から乙の家また丙の家へと轉々して歩くのですね。何だか生活が不安定な氣がしますが、さうでもありませんか？

B　自身やつて見ますと、案外安定なものです。縦に自分專屬の家といふものがない代りに、托鉢先いたるところが惠まれた『吾が家』であつて、横に廣大な邸宅を與へられてゐる樣な氣持がします。『父の家には住居多し。』と聖書にありますがウソではないと思ひます。ボツとしたら、景氣不景氣にすぐ動搖を感ずる世間普通の生活者よりズツト安定かも知れません。

A　無躾な尋ねやうですが、大部分の者が競爭心理で相對してゐるこのせち辛い世の中に、自分の地位を安固にするためには友を賣るくらゐ何とも思はなくなつて來てゐる現代に、『働きを價格にのぼさない』などいふ消極的な態度で、選ばれた高德者でなくつて、ほんとうに生きて行けるものでせうか？よしんば生きて行けるとしても、それは可なりみぢめなもので乞食根性に墮すことはないでせうか？相當の敎育があり相當の家產を擁する君として、さういふ生活に入つて居られるのは、一寸了解に苦しみますね。

B　鄕里の家が私なしにも何とかやつて行けてゐますし、兩親も達者で、妻子はその方におぶさつてゐるのですから、私だけの體驗でお答することは遠慮すべきだと思ひますが、天香さんはじめ同人達の實證によつて、托鉢の生涯が表面消極的なやうで可なり充實味のあるものだといふことだけは言ひ斷つても差支ないやうです。托鉢は生存競爭の敗殘者が衣食に困つて憐みを乞ふといふ意味

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

のものでなく、入園當初の動機は種々あるにしても、同人は自分の不德や罪惡にいつては無論のこと廣く世間の苦惱邪惡に對しても責を負ふべきものとし、その懺悔の故の下座奉仕がつまり托鉢なのですから、之を徹底して行ずるとき、罪は淨められ人々に菩提心(愛)が發り來るわけあひです。この菩提心からの供養によつて許されて生きること、言ひ換へれば自分が生きるために他を害ひ生存競爭の種子を蒔くことのないやうにと同人は常に祈つてゐるばづなのです。ですから、乏しすぎる時、手を出して謙讓に食を乞ふ形だけからいへば、所謂乞食と何等選ぶところがないとも見られますが、かうして養はれた身の所作は神佛に仕へる者とさうでないものとはハツキリちがつて來なければならないでせう。

『君のやうなことをやつてゐては資本家に利用されるか、女子供の淺薄な感激をそゝるくらゐだらう。』との非難をずゐぶん聞かされますが、私がこうなつた動機の一つが資本主義制の改革そのものにあつたのですから、もし私等のいのりの樣式が資本主義制の存續を助け易いやうでしたら、即刻改めねばならぬと思つてゐます。これは私にとつて一番本質的な問題の一つなので、今までにも幾度が繰り返し〳〵虛心に考へて見ましたが、托鉢が如何なる批評にも堪へるものとの自信は失ひません。

とにかく、所有權思想を基調とした財產萬能の現社會にあつて、これとは對角線的に異なつた『無所有』を信條としそれを生活に具現し實證してゐるのが托鉢者に外ならないのですから、少くとも托鉢者個人としては資本主義に依存せず之を無みし之を超越した靈の王國に遊步してゐるわけです。それは『無所有』といつても『我』といふものは誰にしたところが事實に於いて中々脫落しきれるものではないのですから、果してこれがどの程度まで實現されてゐるかは疑問ですが、托鉢者は願として只に財產のみでなく身命才能までも、神佛に捧げることになつてゐますので、安きを偸みさへしなければ資本家に乘ぜられるやうなスキはない筈なのです。

A なるほど、それはさういふわけあひでせう。君のいはれることは君にしてはそのまゝほんとうと信ぜられますが、僕達の接してゐる範圍についていふと、餘程選ばれた人でないかぎり、さうした生活態度はとれないやうに思はれますね。第一、僕にしたところがでたらめすぎる今の生活には、とうからアキ〳〵してゐるので、何かモ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ツト人間味のある生活法をと考へないではないが、子供はもう三人にもなつてゐるし、僕が月給取りを止めれば明日の日から妻子が困ることは目に見えてゐるのだから謀叛心はまあ後まはしにしておのづと現狀維持に甘んずるやうになるのですね。これを押し切つて眞面目な心で新生活に飛躍できる人はその事だけでよつぽどえらいと思ひますよ。弱音をはくやうですが、托鉢は妻子もろとも家庭ぐるみ普通な人にやつて行かれるものでせうか？

B　これまでの經驗に徵しますと、托鉢者同志のつくつた家庭なら割に無難に行けるやうですが、これは實際問題になると可なりやゝこしいことになりがちです。出家眞諦のかたちですと反つて道はハツキリし易いもの、やう に信ぜられますが、在家俗諦の立場で眞道を行ずるといふことは想像なさるやうに中々なまやさしい覺悟では出來にくいやうです。前の方を禁酒にたとへるなら、後の方は節酒にあたりませう。家庭をゆるすとなると、ども愛慾に囚はれがちになります。子供でも增えるとそれはやゝこしいものになりますね。このことについては前科者であり現在にもずゐぶん汚れてゐる私など全然發言する資格はありませんです。親しくしてゐる同人の中にも自分の立場を理解しない家族を棄てゝ來てゐる方もありますが、私はたゞ拜ませてもらつてゐます。『棄恩入無爲、是眞實報恩者』にはちがひないにきまつてゐますし、私もほんの型ばかりでしたがやるにはやりましたが、いよ〳〵煎じ詰つて棄恩と覺悟をきめた刹那の緊張味は事實上どうも持續しがたいもののやうですから、これは容易ならぬ問題だと思ひます。家族に對する道德を蹂躙してもなほ悔いない程の權威がその人のいのりから出て來ないかぎり、一時の感激で漫りに棄恩の態度をとることは許されますまい。すでに家族を成した以上、家族も亦社會の成員ですし主人として之を守りする道もなければならないやうに考へられ、また同人の生活の實際上の必要からも差し迫つてゐる事柄なので、最近京都で私等の非公式的な相談會がありました折、このことが主な議題の一つになりました。種々な意見も出まして、妻子のある方または近く家庭を作らうとする方と獨身の方との間には、どこかシツクリ意見の合はないやうな嫌ひもないではないでしたが、結局、次の說に贊同するものが大多數でした。——

各家族は社會に對つては普通の經濟關係に立つてもよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

いことにしまして、托鉢者の生活清規である『働きを價格にのほさぬこと』は、こゝでは精神的態度たるに止つて、給料をもらふことも商賣することも現在の社會組織の改革されないかぎり許されることするのです。これを許せば如何なる仕事に從つても固より拘束さるべきではありませんが、原則としてその仕事本來の性質上人性の成長を妨げ社會の調和を害ふやうな種類は禁ぜられなければなりません。

A　なるほど、それまで許されるなら僕のやうなものでも或は仲間入りが出來ないこともかぎりませんね。それで、世間普通の生活と、何か餘程ちがつたことがあるのですか？

B　生産方面收益方面――つまり財の受け方は全然同じところまで行くと思ひますが、消費方面いひかへれば財の扱へ方、用ひ方はハツキリちがつて來なければならないのです。たとひ些かな物でも私有視したら道は立ちやうがないでせう。こゝに極度の虔しさが要求されます。受ける時に勞働者の犧牲の血痕鮮かなまゝを收めた財なのを、せめては用ひ方で幾分なり淨化していかうといふのですから、鋭い自己檢討がないと識者の批評には堪へないものに墮してしまひます。これは根本的なことですから制度の力をもかりて財物の取扱をハツキリさせたいといふのが多くの同人の意見でして、宣光社（直接治生産業にたづさはつて世間普通の生活樣式をとつてゐる同人の團體を或る因緣からこんな名で私等の仲間だけに呼びならはしてゐるのです）の者は收入すべてを神佛に還すといふ意味で之をその委員會に捧げ、委員會は各社員の必要に應じてまた之に供養するといふ制度が考案されたのですこれが具體化するとずゐぶんいゝと思ひます。

A　つまり武者さんの『新しき村』が巷に齎されて、更に民衆化されたものが創生れるわけですね。僕もヅット以前からそんなやうなことを空想に畫いて見たこともないではありませんでしたが、實現の手がかりが見つかりませんし、そのまゝにしてありました。君の方のは托鉢といふ境涯が實證されてゐるのだから充分可能性がある。是非、範を示してかたゞきたいですね。武者さんの『新しき村』の精神そのものには無論共鳴されるけれど、そのあらはれには僕等が參加するとして少し無理な點があるらしい。君の方のなら大丈夫だ。いよ〳〵實現されると參加者共鳴者が意想外にできませうよ。

B　すこし微温的すぎる氣もしないではありませんが、これほどのレヴェルでないと家庭をなしてゐる者には一寸ついてきにくいと思ひます。しかし宣光社も社員同志だけの生活が比較的合理化すれば、それで問題が全部片附いたやうに考へたら、一種の獨善主義に墮するわけでせう。世には托鉢とか宣光社とかいふことについて思慮する餘裕も能力も與へられてゐない虐げられた無產勞働者の大衆が存在することを忘れて、平素接してゐる僅かな人々の生活が幾分光化されたぐらゐなことで能事了れりとしてはなりますまい。それで宣光社員は、奉仕日を立て托鉢を奉行して身の染着を祓濯すると共に、使命を勞働階級の解放に感じて居るものは集中的のいのりをその方にこめるべきだと信じます。

A　なるほどね……

B　勞働問題に對する同人の態度については一燈園としてまだ十分意見を練り合つてをりませんから園を代表しては何事も申されませんが、この問題は私にとつては學生時代からの宿題なのですから私だけには考は一ト通りまとまつてゐるにはゐます。

A　いつでしたか、君の卒業論文といふのを謄寫版ずりにしたのを讀ませてもらつたことがありましたね。たしか『社會主義の經濟學的倫理學的根據』とかいふ題でしたねあの當時と同一意見なのですか？

B　一つ根本的にちがつてきた點があります。それは罪惡感についてゞす。當時、冷嚴な權利論に終始してゐた私は、自分の罪といふやうなことを餘り問題にしてをりませんでしたが、それがふとした因緣から早大の中桐教授の御紹介を得て天香さんのお導きに預つてから、これまでにトント氣づかないでゐた風光を示されまして、ほんとうに自分が惡いといふこと從つて生涯を通じて懺悔のための奉仕につとめねばならないといふことを痛切に感ずるやうになつたのです。いまでも自分にあきれるくらゐ汚ないものを持つてゐる私ですが、かうなる前はそれはひどいものでした。イヤに勝氣な性分でしたから勉强ごとはいくらか出來た方でしたらうが、我がまゝで輕薄で物事を批評的にばかり眺めて他と渾融する精神に缺けてをりました。それが兎も角も今日までになれたのです天香さんにお會ひ出來たことは私の生涯にとつて確かに劃期的な事件だつたと思ひます。

B　師を見出だすことが出來た人は仕合せですね。……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

B　初めて天香さんにお會ひしたのは、コーツト大正四年の秋と記憶してゐます。もう大分になりますが、その時の光景は餘程深い印象を私に與へたと見えて、今でもハツキリ再現させることができます。……場所は、中桐教授の宅でした。うかゞつたのは暮れて間もない時分でしたが、座に二三の先客が見えてゐて、私が入ると床の間を脊にしてテーブルに兩肱をもたせてゐた黑筒袖の人が席を立つていかれました。こゝの出入の御用きゝにしては高座すぎるしへンな人が來てゐるなと思つて居りますと、間もなくその人がまた元の席へ戻つてきて私の方に恭しく御挨拶なさるぢやありませんか『私が西田天香で……』といはれるんでせう。あんまり意想外なので私はどぎまぎしてしまひまして、とみに言葉もでないくらゐでしたが、その晩は特に私のために時間をおさしくりなさつたといふので、一時間あまりにも亘つて懺悔奉仕の生活を始められるにいたつた徑路、轉機について詳しい告白談をきかせてくださいました。

　ヂイツと耳をすまして傾聽してをりますと、なだらかなやさしみのある上方辯の中にもどこか犯しがたい響があつて、一語一語、心の奧底までもしみこむやうな思ひがしました。批評の餘裕などは更にありません、『マア大體こんなやうな生活をさせてもらつてゐるのです。あなたの問題にお役に立つやうでしたら、どうぞお使ひ下さい。中桐さんからあなたのことはあらまし承つてをります。』と言葉を結ばれたとき、私の精神は驚異そのものであつたといへませう、ろく／＼御禮さへ述べず、退京前モ一度會はせていたゞくことを御願ひして暇を告げ、どこをどう歩いてか可なりの道のりを雜司ケ谷の寓居に戻つたのは隨分ふけてからでした。その晩は床に就いてからも考へさせられてトウ／＼まんぢりともしませんでした。苦しかつたんだか嬉しかつたんだか今から顧ても名狀しがたい氣分がその後の幾日間か續きましたが、その時から私の生活は革つたといへばマア革つたのですね。

A　それからすぐ一燈園へお入りになつたのですか？

B　その時私にはモウ子供が二人も出來てゐましたから、なか／＼オイソレと問題は片附きませんでした。親達にはあきれられる、連合とは距りが生ずる、私にしてはずゐぶんな試練でした。サンザ親不孝をはたらき罵詈侮蔑冷笑を浴びながら、當時の私にとつては背水の陣營であつた雜司ケ谷の寓居をたゝみ、すご／＼、家族を郷里に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

おくりかへして、單身京都へまゐりましたのは翌年の早春――二月の半ば頃でしたらう。

A　よく思ひきつて決行しましたね。僕等とは隨分ちがつた徑路ですね。それからズウット托鉢をお續けですか？

B　始終だれがちで自責を感じてはゐますが、曲りなりにもさうしてゐるわけです。

A　羨ましいやうです。毎日、わだかまりなどいふことはなく、人間味を生かして暮らされるのでせうね。

B　イヤ、なか／＼さういふわけに行きません。一信に澄みきれるといゝのですがね、私なごは斷えず煩悩に囚はてゐるんですからダメです。權勢とか功名とか富貴とかいふものに對する慾念はあらかた整調されたらしい氣もしますが、愛慾についてはまだ／＼血みどろな難行苦行が殘されてありますし、こんな艶けしの風をしてをるので時々聖者扱へを受けて恐縮することもありますけれどどうして／＼一切のわだかまりがないなどいふ境地にばかりゐられるもんですか。

それは、かうなる前の私は可なり極端だつたのですからその時分と比較してなら、全く救はれたといふ實感が自分だけにはしてゐます。折にふれては、見性とか本來の面目に接するとかお光りを拜むとかはこんなながめをいふのではあるまいかといふやうな體驗もないではありません。それから、世上の種々な憂苦――例へば勞働問題のやうなものに對しても、單に社會惡として取扱はずに自分をその原因に數へ自分の責任問題として、他を糺彈するといふよりは自分の罪を懺悔する心で、禍根をなしてゐる資本主義制の根絶に懸命のいのりをこめるやうになつては來てゐます。

A　すると、社會主義者の立場とどうちがふのです？

B　社會主義者といひましても殆ど十人十色で、どれを標準に比較すれば至當だか選擇に苦しみます。私等は勝手に『光化運動』といふ名でかうした私等のいのりを呼ばせて貰はうと思つてゐますが次ぎのことだけは私として言ひ斷つても差支あるまいと信じます。

現社會の二大支柱をなして居る私有財産制、無制限競爭制の時代錯誤であること。

これが改革されて新に協和相愛の精神を基調とした社會組織が創始されるなら、現に達し得てゐる生産力で優に社會の給養は充分であること。

かくて各人の生存が社會の名によつて保證されること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

になれば、社會生活に著しく安定味が加はり、自他一體感の發動も從つて容易になり普遍的になること。

A　なるほどね。

B　世間にはずゐぶん悲慘な逆境にありながら反つてそれが機緣になつて靈的體驗を得られ、更に惱むといふことがなく感謝と報恩に法悅の生涯をおくられる方もないではないが、これは稀有の例であつて萬人に望むのは無理でせうから、社會を社會としてどうかしようといふのには普通人を標準にして方策を立てなければウソだと思ひます。かう考へてきますと、所有てるものは益々與へられ所有たざるものは更に奪はれて社會が少數の資本家と大多數の無產者とに階級別されざるを得ない現社會組織をどうにでもして改革して、協和相愛の原理に基づいた新社會が再建されるのでなければ、全社會的に『愛と自由との王國』の出現することは永久にあり得ないやうに推測されます。前に申しました『宣光社』の試みも要するに『選ばれた少數者』だけの問題です。たとひ日本に何ヶ所何十ヶ所に宣光社的コオペレーティヴ、コンミュニティが出來ればとて（これは勿論歡ばしい現象にちがひありませんが）たゞそれだけで全社會がどうにかなるやうに想像するのは少しおめでたすぎませう。これはどうしても組織改革の外に道がなからうと思ひます。

A　それはさうでせう。デ、その具體的なはたらきかけは？

B　たとへばこゝに癰をやんでゐる人があるとしますか。賣藥の吸出膏を貼つて一般の攝生をよく守り病毒に對する抵抗素を旺んにするのも確かに一療法たるを失ひますまい。加持祈禱によつて靈癒をはかることも必ずしも斥けるべきではないでせう。しかし近世醫術の發達はメスをもつて菊の紋形にズブ／＼切開することを最も安全な間違ひのない療法とするにいたりました。

問題は勞働問題をどう診斷するかによつてきまるのではありますまいか。個人的な種々な執迷——手いたい失戀や深刻な怨恨にしても、セイ／＼根太ぐらゐのところでせうから、溫情ゆたかな精神主義者や涙もろい宗敎家のなすところに任せて膏藥貼りと一般攝生と加持祈禱とによつても、大概は自然に治癒しませうが、勞働問題は、私の診るところでは、どうも普通のお腫ではなさゝうです。根の張り具合からいつても、まかりまちがへば一命にもかゝはる餘程惡性なものに思へるのです。吸出膏などお受け付けないでせう、たとひ貼りましても。ですから、人命を思へば、どうしたつて手術を施す外に活路はありますまいが、それにしても、その邊の開業醫や商賣氣たつぷりの病院長級ではダメです、罪惡の自覺と人間性に對する禮讃の至情と兼ねて對症療法の熟練とをもつた國手にメスをとつてもらふのでなければダメです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

A　なるほど、なるほど。面白い比喩ですね。……君のやうな態度に共鳴される同人も少くないでせう。

B　あるにはありますが、さうたんとはないやうです。

A　どういふものでせう？

B　さう、私はこんなふうに觀察してゐますがね……個人々々托鉢して無所有の生活を實證することが私等の根本祈禱になつてゐまして、この立場では『うちつけられた石も瓦も、わが袖の玉と拾つてつゝむ』といふ謙讓が要求されてゐますから、托鉢者はどこでゞも歡ばれるのが常です。歡ばれてわるい氣持のするものはありません。そして托鉢者の生活は同一の場所の同一の仕事に固定しないで轉々と移されるのが普通になつてゐますから情景の變化に伴ふ快適の感があります。又權利義務一切を抛つてゐますので肩が輕いといふこともあります。私などにしましても、さうして步いてゐた時の方が、すが〳〵しい、はれ〴〵した日が續きました。もう問題も何もないのです、接する人〳〵がみんな善男善女ですもの、このまゝでよい、一物も加へることはいらない……といふやうな實感も味はれます。それは可なり充實した氣持ですよ。いたでを負うた心もこの境涯にひたれば癒やされませうから、社會苦の存在に親しく觸れない人なら、こゝを安住の天地として落着いてしまふのも相當理由あることゝ思ひます。

A　やはり、一種の獨善主義に囚はれてゐるのでせうね。

B　そんな氣もいたします。……一藝一能を修めるにもなみ大抵な苦心ではうまくいくものではありますまいからまして托鉢などいふことは、よほど銳い自己檢討がなかつたらとても出來るものぢやないとつく〴〵感じさせられます。そこは弱い人間同志のことですから、托鉢者も托鉢される家も少しなれると知らず〳〵妥協してしまひがちなものです。一度、妥協してしまつたら、もう托鉢はいのりを失つて單なる手傳仕事に墮して菩提心を拜み出すことなどは更にありませんし、托鉢される方でもたとひ無意識的にせよ托鉢者を利用するか或は之に恩惠を施してゐるのだといふやうな態度をとることになりませう。かうなると、托鉢は文字通りに『怠け者の天國』となり、托鉢者は『奴隷道德の忠實な遵奉者』となつて、新社會の再建途上に於ける力弱き障害物たる運命を擔はされるぐらゐが關の山ですから、私等は出來るだけの省察と督勵とをしあはなければなりませんです。

A　どうかしつかりやつてください。……東京にも一燈園はあるんですか？

B　エヽ、建物はまだ惠まれませんが同人はゐます。……ア、C君が來ましたよ。D君も。後のはE君でせうか？

A　さうです〳〵。ヤア一度にやつて來ましたね。これは愉快だ……

（一九二三年三月）

冬から春へ（詩十二の内）

鈴木五郎

あさ

破れ戸の隙から
朝の爐の火が
笑ふ

「さあ、今日も
　晴れたぞ」

ごぶ板の上に
うづくまつた犬が
をびえたような眼を
ふるわす

掃いてゆく　箒の先に
蜜柑の皮が
面白く踊る

花賣り
菜つ葉服
ごみそうじ

白い息

須磨

須磨の海の
明け方の景色は
ほんとに
「菩薩の夢」のようだ

朝霧に
近く遠く
三つ四つ帆が
浮いて
七つ九つ帆が
浮いて

おゝ　太陽！
すべすべした波が
ぴちぴち
踊る

思はず合掌――

淡路島が
大きく
うなづいた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

空に指さして書く

愚學

昨日のやうに朝がある……

めざめたばかりの心に
それは何んと云ふ新鮮な魅惑であらう
私はまるでこどものやうに
悦びにみち〳〵て輝いて居た
飽滿の幾時か流れた

今日のやうに明日があるだらうか……

想念の翼をかすめて
理智の閃光は、氷のやうに冷たく
思ひ遣りのない外科醫のメスのやうに
冷やかに
私の心にふるへる

私はちからなく
窓邊にうなだれて居た

時はながる、
私はいつしか
聲なき聲に聞き入つて居た

時はながる、
時はながる、

私は空に指さして
書きつける……

「在る」ことの峻嚴さに
さうして
「在る」と云ふことの驚異に
みつむることの尊さを知る

昨日のやうに朝がある……
わが果しなき道の途上に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

裸人のをどり

まつしたきちゑ

『……穢多こそ人間だ！……』
何といふ沈痛にして權威(ちから)あることばだらう。
嘗て誰人がかくは叫び破つたか？
人間禮讃のクライマックス！
叫ぶ者の眼よ、頰よ、唇よ、頭髮よ、
而して全身全靈よ！
それは焰だ、赤熱だ、
何物をも燒かずには置かぬ業火だ。

おゝ裸人のをどり！
その根(こん)かぎり精(せい)かぎりの躍動よ、燃燒よ！
權勢が何だ、富貴が何だ、○○が何だ、
生が何だ、死が何だ、
戀か、戀さへ何だ？
天も聽け地も耳傾けよ！
あゝ撥無された一切。
しかも見よ、そのケーオスに閃く白毫！

裸人は靈と靈とをひしと抱き合つてゐるではないか？
これがほんものでなくて何がほんものといへる？
眞だ、美だ、聖だ、至一だ、永遠だ、生命だ、愛だ、自由だ。
あゝ人間のことばの如何に短かすぎることよ！
見よ、彼等はたゞ體をゆすり音響を立てゝゐる丈ではないか？

私は泣けて〱叶はない、
つれに見られるのが羞づかしい程に
拭へども〱涙がおし出てしやうがない。
——ふと、私の目を射たものがある、
臨檢の警部補の制服姿でないか？
それは何事を意味すると問ひ給ふな。
演壇に獅子吼の猛者と
何といふ對照であるよ！
見る筈でないものを
見る筈でないところで見せられた私の視神經のうろたい
私は思はず顏をそむけた。

裸人のをどりは、されど、猶も續く
——時も所もあらゆる人爲の繋縛をも超越して。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園日記抄

◇二月十三日　はれ

　惡學さんの精舍びらきだと云ふので、午後五時頃から當番さんを始め啓文さん蓮車さん河村さん、扶桑さんなど御招待されて行かれる。七時過ぎ同じく御招待をお受けになりました天香さん懷寂さん保光さん、そして前記の皆様がお歸りになつた。夜のお客さんとして高臺寺の大原さん御夫婦托鉢先の島谷の娘さんなどお見へになる。平野眞澄さん半月位の豫定で大阪の武田二郎さんへ托鉢に行かれる。

◇同十四日　くもり

　園の周圍も餘程春めいて來て靈鑑寺の庭で鶯が啼く。倉田百三さんの御紹介で加島明子さん御入園。

◇同十五日　あめ、かぜつよし

　信州の木曾行賢さん御歸國

◇同十六日　はれ

　お客様がお二人お見えになつたきりで園はひつそりと靜まつて居た

◇同十七日　くもり

　今日も園は靜まつて居る。在園者僅かに二三名お客さんも見えず

◇同十八日　はれ

　朝早くから建仁寺の僧堂の雲水さん、桃山女子師範の生徒さん數名を始め毎になくたくさんお客さんがお見えになる。花園一燈園の園ちやん華ちやんが久し振りで歸つて來る。大學病院に入院中の相賀さんも今日は氣分がいゝと云つて遊びがてら歸つてお見えになる

◇同十九日　はれ

　園に久しく病を養つて居られた飯島其枝さん經過がおもしろくないので御歸國になるどこからか酒の粕のお供養がある。

◇同二十一日　はれ

　風邪が流行つたのであらうか御婦人の方が一度に五六人枕を並べて臥床される。澁谷さんが甲斐〲しく看護してくれられる

◇同二十二日　はれ

　澤庵五樽漬ける。夜御旅行中で御不在であつた天香さんが久方ぶりで御歸園になる御講話とては無かつたが園は明るくなつたやうに皆の面持は悦びに輝く。

◇同二十三日　はれ

　朝粉雪がちらつく。お客さんの多い日だ朝から十數人お見えになる。鈴木千賀子さん神戸から御歸園

◇同二十四日　はれ

　朝まだ暗いうちから天香さんがひよつこりお見えになる。折あしく寢坊してゐた一同、いさゝか面喰ふ。澁谷さんと千賀子さんが畑に出て降りそゝぐ春光を浴びながら菠薐草の移植をされる。夜十一時古陵さんの後をうけて當番をして下さる河野鏡圓さんと大阪同朋園の清水精一さんとが岐阜からお見えになる。

◇同廿五日　はれ

　今朝もまた早々に天香さんのお顏を拜することが出來た。しばらくして海野さんとお出ましになる。前日のあとをうけて陽當りのよい南側の畠を、御婦人達がさも〲愉快げに耕しては蔬菜を植ゑつけられる。山田要平さん神戸へ向はる。

◇同廿七日

　昨夜は痛烈に寒氣を感じたが今朝は筧の水がすつかり氷つて了つて居た。溪へおりて行つて水を汲む。風邪が依然として止まぬので今日は廿人程園に殘られる。朝も晝も夜も食堂は賑ふ。水谷さんから雨傘のお供養がある。古川賢三郎さん室伏さん和辻さん桑名へ托鉢に。

◇同廿八日　ゆき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

二三寸積雪を見た。筧の水はまだ通らない。夜天香さん御歸園。禪堂で海野さんが當番をお勤めになる御披露があつた。栃木鹿沼製麻會社へ托鉢中であつた伊藤猛さんが久しぶりで御歸園になる。千賀子さんは病氣の御保養を兼れて愚學精舍へ托鉢される

◇三月一日　はれ

今日から海野さんが小林さんに代つて當番をお勤め下さる。小林さんは昨年の八月から昨日まで永い間御苦勞であつた。お客さんとして、陸軍歩兵少佐松岡都佐雄さん『家庭の友』主幹川上忍堂さん東京神生教壇の坂東長十郎さんなどお見えになる。天香さんに是非一度お逢ひしたいとのお話であつたが天香さんは折惡しく今朝三重縣へ赴かれて御不在の爲めどうすることも出來ずわざ〳〵お越し下すつたのにとお氣の毒でならなかつた。

◇同二日　はれ

筧の水がやつと通る。お天氣がいゝので當番さん始め四五人連れで裏山へ柴刈りに行く。矢野さん西川さん酒井さん神戸から御歸園。大阪の岡崎伊八さん五六人連れで遊びにお見えになる。

◇同三日　はれ

今日はお節句だと云ふので園に殘つて居られた御婦人方五名愚學精舍へ招かれてお節句をしに行かれる。伊勢富田町の大野さんの奥樣がお見えになる。

◇同四日　はれ

古陵さん天香さんのお供をして繪行脚の旅に出られる。風間さんの奥樣がお供養を持つてお見えになる。鈴木治兵衞さんからも白米のお供養がある。

◇同五日　はれ

大阪の北川敏郎さん市内の細谷善兵衞さん信州飯田町の神谷勘左衞門さんなど十人程お客さんがある。伊勢に托鉢中であつた竹岡さん富田さん御歸園

◇同七日　はれ

夜松下吉衞さん伊藤猛さん宣光社の保光さんなど打つれて御歸園お勤めをすませて愚學精舍に行かれる。鹿沼製糸會社に托鉢中であつた増淵幸之助さん御歸園。

◇同十日　あめ

松下さん伊藤さん柳原さん保光さん相さん園からは當番さん啓文さん蓮車さん河村さん澁谷さんなど愚學精舍に集まつて園の將來に就いて御意見を交換された。

◇同十一日　あめ

前夜のお話を纏めて神戸から御歸京になつて天香さんを宣光社へお迎ひして御相談になる。前夜お集りになつた他に神戸から鈴木五郎さんがお加はりになつた。

◇同十二日　はれ

住吉方面に托鉢して居られた宇戸つる枝さん上岡小春さん御歸園

◇同十四日　はれ

夕方天香さん御歸園禪堂で御講話があつた。

◇同十五日　はれ　かぜつよし

澁谷さん江州の御友達が病氣だと云ふので御看護に行かれる。

（藤田記、愚學抄錄）

〇**表紙題字**　は大谷光瑞師が支那の西部、敦煌で發掘なさつた唐寫金光明經からいたゞきました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

三通りの生活

西田天香

世の中のくらしかたに三通りあるとする。どのやうなことが出來てきてもあきらめ通ふしてまけてゆくゆきかたが一つで、どのやうなことにも勝ちとうしてゆかうとする一つとの外に、たゞおひかりにまかせて懺悔奉仕するゆきかたの一つである。

どうかすると宗教的體度として前の『まけ通してゆく』ゆきかたが提唱される。ほんとの宗教的體度ならば實に結構なことで、別の世界を建立するにはどうしても此體度によらねばならぬことゝおもはれますが、さてその扱ひかたを事實の問題としてあたへると、はつきりとせないのに困る。出家沙門の姿となればやゝはつきりとするが在家のまゝ家庭や産業をもつものは、そのおだやかなやさしい體度にいかに心がひかれてもやりきれない。トルストイの無抵抗主義などゝ一時思想として珍重されまたあれほどにト翁が生活の上に實現しやうとつとめられても、多くの人が追隨するには容易でない此頃良寛上人が珍重される。『焚くほどは風がもてくる落葉かな』。せちからい世の中につかれきると全く良寛がしたわしくなる。その筆の跡の瀟洒として神歌にみてる、そゞろにきたない頭を淨められるが、さりとて自分の生活をそのまゝ良寛上人のやうにして子供と一ッになつて球（まり）をついてゐるわけにはゆかぬ。彼の人は出家沙門の身我等は妻子や産業がある。『まけどふし』は強い力のあるものでも、實際の生活者にはどう實現したものかゞはつきりせぬ。宗教では淨土門が此やさしみをたゝへるにふさわしいのであるが、此世の生活が全く此きもちと兩立しないので、娑婆ではどうすることもでけぬから、來世で極樂往生をとげるといふことにもなり、また内心には深く信心をたくわへて、生活狀態は世間通り商ひをもし獵漁りをもして所謂眞俗二諦でくらせといはねばならぬ事にもなるのであるまいか。

宗教的體度であつても、これほどに『まけ通し』の實際化はむつかしいものであるものを、宗教的でなくての『まけどふし』は只是『お人よし』とか『落伍者』とかになるのであらう。わたしは少からず是に同情はしたい、なぜならば此人等は多くは良い人であつてまた『まけ通ふし』は他の人が樂に勝つことにもなり、此結果としていつまでもまけながら割

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

合に不平をいわずに、よくはたらいて所謂『椽の下の力もち』をしていてくれてよく申せば隱德をつんでいる事にもなることです。同時に兩方が勝つといふことはない、どちらかがまけてはじめて問題の「ケリ」がつく。百叩きあつて最後の一つでまけるのも始めの一つでまけるのもまけることが一つとすれば、百たゝきあふことはいらぬ兩方の損害であるとすれば、いくじのないヤツといわれても、どうせ敗けるなら早いが兩方のためでもある。『まけ通し』の人がよしや宗教的體度でなくとも、穴勝全體から見るとわるいとは斷じられない。こうした意味に於て同情はする。じやといふて我等はこれが理想であるとは思はない。なぜならばそこに先方即對手をして讓らす力がもられていない。落伍者じやとか失敗した人とかいふて勝ちほこらすのみで反省せしむる力が此人等にない。あくまで勝たんとして敗けたのは對手の反省をさす力がないとしても、始めから爭ふまいとするには少しは此力がありそうなものなれども、世が段々にはげしくなつてはこれすらない。『終身一歩を讓るも百歩を損せず』この古聖の言葉も今の大阪や東京の電車の交叉點で服膺していると終日たつても電車にのれない。これはその敎へがわるいのでなくて、それを實行するには餘りにはげしすぎる世態となつたといふべきである。世にはやさしい爭はない正直にはたらく勞働者も澤山あるものを、一方に勝ちほこつて潜上な生活をして省みない有產及權力階級のあるのも是がためで、今日の反資本主義の赤化を極めるのも已むを得ぬ。つまり『まけ通し』には同情は出來るが析伏の力がこもつてゐないが缺點である。

次に勝ち通してゆかふとする生活はどうか。これにも宗敎的體度でのそれと、普通の蠻勇的なのと二つがあるやうです蠻勇といへばよくない形容詞であるがこれにも同情はよせても見たい。それは今の世の中ではなまなかな良心をもつてゐるといつも生活がおびやかされて、妻子を路頭にたゝす恐れがある。腕をまくり酒にひたつて對手を打ちのめしてくる人にも己れの妻子を養ふ義務はチヤンと心得てゐてくれる。やさしい心はみなもちながら、下手に出ればどこまでもつけあがる世の人のなかで、小さい家庭でも一つの城主であるその主人が米屋の拂ひも授業料もチヤンと拂ふて、たまには人なみの遊びも妻子にさせたいとおもふと、何かの問題にぶちあたつて蠻勇的に勝ち通したがるのも無理はない。更らに進んで多くの惡事がこんな原因から生れてくるとおもふときに、あらゆる犯罪にも不少同情がよる。しかし勝つといふことは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

先方を敗けさすことで彼れも人類また兄弟であることすること、ほめちぎる事は出來ぬ。蠻勇は矢張わるくて法律にふれるまでゆけば辯護のしようもない事である。よく働くことよく勉強することかいふ結果が自から勝利になるのは無論立派なことであるが、彼れに勝ちこか彼れを凌いでこかいふ心理狀態は善いものとはいへぬ。すみませぬこいふ氣持で電車に押し乘るのは押されながらさわりにならぬが、『なんだおれが乘るものを』などゝ殺氣立ちて無理に込み乘るのは誰れにも嫌な心地がする。低級な『勝ちたい』生活は全體の爲めによくないは明かである。

玆に宗教的のそれがある。これは中々容易によしあしを斷じかぬる『まけ通し』のやさしみが淨土門にありとすれば『勝ち通し』のこれは聖道自力のほうにあたるかも知れぬ。淨土門が人心を救ふにふさはしいこ同樣に、聖道門が佛心を樹立するにふさはしいことは論はない。惡人正機こたてゝも本來佛なりこたてゝも究極する處救濟解脫は一つである。何等の批評の餘地も我等はする資格も力もないけれども、是もまた實際の生活にあてはめて見るときは、中々に面倒な事のみである。

『天上天下唯我獨尊』この釋迦の唱破は、キリストの『我世に勝てり』こ共に『勝ち通し』の大宣言である。けれどもたゞ少しばかり教理をわきまへたからこて無闇に肩で風を切つて偉いものゝ樣にやられても困る。理窟は何こでもつくものである。また第一義よりすれば馬の糞でも光明は放つてゐることも聞いてゐる。けれどもその馬の糞は男衆の箒の下でむざんに掃れても少しも不平をいひはしない。そこに光明がはなつてゐるのかも知れぬものを、人が無闇に佛呼ばはりしたり勝者の振舞をするならば困つたものである。すなほにハイこ下坐をするそこに強い勝味もある、自分は勝者だこいふこきに馬糞にも恥かしい氣持のすることもある。本來は佛でもあらう、また世に勝つことも出來もしよふ、たゞ困るのはそれを實際生活にごうあらわすかである。

國でいへば先年までの獨逸はそれであつた。獨逸は勝利者であらねばならぬ、獨逸の人のゆく處そこには國旗が飜り、國旗の飜る處そこは既に領土の姿をなしてゆく。商人こ軍隊こは一つであつて、押し及ぼして所謂汎獨逸主義、世界を獨逸にするこの勢は隨分猛烈であつたではないか。そこまでになる獨逸の人にまこここに立派なものもあつたであらう、此頃

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

のやうに困り拔いてもまだ國内に暴動も起らずに、秩序正しく眞の臥薪嘗膽をやりぬく處、日本人ならでも出來まいとおもふ程の體度である位で、中々に立派なものがあるに違ひはなかつたらうが、汎獨逸主義の爲めに世界はどれ丈の大損害大迷惑を蒙つたかも知れぬ。人間萬事塞翁馬と達觀すれば別問題だが現に歐洲の大疲弊を見また獨逸それ自身の破滅を知れば、うつかり獨尊主義をはきちがへると大變になることが明かである。淨土門がうつかりすると弱はすぎる來世主義となつて彌陀にも利劍のあることを忘れるのと同じやうに、法華がやゝともすると强よすぎる現世主義となつて常不輕の體度が人格にあらはれかねたり、禪宗を學んで開山國師の謙遜埋德の體度や道元禪師のやさしい行相威儀のあらはれ兼ねたりするのも、矢張宗敎的『勝ち通し』の人格化や生活化の容易ならぬことを證明するに足るとおもふ。

『敗る』のがあぶないのと同じやうに『勝つ』のもあぶないものである。殊に『勝ちたい』は人間性の弱點と一致して一層全體の爲めには危いやうである。『結果が勝利となる』といふことは許されべき事かも知れぬ、それならば人にも愛されもするし、その結果を弱い人に捧げもする。『勝ちたい』といふになり勝ちなのが危い。資本主義は『勝ちたい』主義であつた。慾望を基礎とし自由をはきちがへて發達した經濟は資本主義となつたのではあるまいか。されば『勝ちたい』主義であつたこともいへる。また今の反資本主義であつても、正しい道理の外に『劣けず氣』『勝ちたい氣分』が多量に含まれてゐるときに矢張同樣の危さがある。正しい道理のうへに立つはよい、己れを省みて道理にあてはめるはよい、道理でない事について正に堂々と改造を禱るのもよい。併しほんとに心の底から一切に忠實なものは、少しの上すべりした考をも交へず、一時の快感に誘惑されることなく、世界が理想化するに禱らねばならぬ。こうした時は『勝ちたい』氣持のあまりに子供じみてゐる事に氣の付くものである。

叩き伏せたとて、少しも悅服させてはゐない。屈服させたのは眞の勝利でない。常不輕菩薩のやさしさに强い力のこもり、米をお米といはれた道元や、微笑塔前にたゞ一人の弟子に道を傳へて坐脫立忘された關山國師が、臨濟曹洞兩家の眼目であつて、此法子や法孫が大政治家をたゝきあげたり、國難を救ふたり、また中々に積極的な改造を實行させてゐることは少し眼を落付けて考へるとあり〳〵と見へてくる。悲歌慷慨の士必らずしも大をなさない。長い間資本主義も大勢で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

あつたけれどもそれが全く正しいことではない。反資本主義に正しい意味も含まれてゐる、けれども大勢として動くうちには正しくないものも動いてゆく。『勝ちたい』氣分などはその最も重もなる一つであるまいか。

宗教的にもまた經世的にも、かうした危さがありがちであるときに『勝ち通し』の生活化が餘程の反省を加へてゞないと、危いことゝおもふ。獨逸魂も大魂和も餘程の洗練と整理とを要するやうである。

『まけぬいてゆく』生活と『勝ち通してゆく』生活との、普通な低級な體度の危さは無論の事。それが宗教的でありまた經世的であつても餘程の反省と警戒とを要する事であつて、隨つて實際の生活に具體化せねばならぬ我等今日の現實には、うまく活きてはたらかない爲めに、眞面目な人や、眞劍な人が新らしいふさはしい生活樣式を求めてくる事になるのであるやうです。

此要求に應じて種々の生活があらはれてくるが、おひかりに任せて懺悔奉仕する生活も矢張そのうちの一つであるとおもはれる。

これは一燈園と宣光社とで一生懸命でその生活と規範を試みてゐる次第で、是までも色々の樣式で說明もしたし、また重もには實際に試みてゐるのであるが、出來上つたと申すのではなく、是からいよ〳〵精彩を加へねばならぬ事になつてゐて、もとより容易のことではないけれども、要するに前の二つのうちそのさわりの除かれたものでありたいのと、出家沙門の形式に於て成効されたる事を、在家家庭のまゝで實現して見たく、さらに押及して產業組織にまで延ばしたいのである。つまりあらゆる事を光化して見たいのである。

光化とは別にかわつた事でなく、理想化といふてもよい。宗教が在來生活に延び兼ねたのを延ばし、物質運動が精神的になり兼ねるのを延び及ぼさし、彼れ我れとはなれず何階級何階級と對立せず、己れの心己れの身、己れの生活のうちにある非理想的のものを、互に禱りあひ、改造しあつて、おひかりにまかせ、おひかりを浴び、光心光身光生活とすることによつて、新たな生活相を建立して見たいのである。建立といふよりは、それは本來のまゝである、忘れられたもの、取戻してある。このくわしいことは段々にまた書かせてもらふことにする。

一燈園　西田天香著

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園西田天香著

托鉢行願

◆定價貳圓廿錢 書留料拾八錢

四六版黒布表裝四百頁

新刊

苦惱に滿てる人生混沌として闇き社會を救はんがため二十年の星霜を懺悔奉仕の托鉢に送りたる天香師が虔しやかに世に贈るこの尊き我等の福音書を見よ

師の日常生活は、人の家に入りて下駄を揃へ庭を掃き便所を潔め納屋を整理する、一見殊更に奇異を裝ふ如く見ゆれど、然らず、一切の我執に放れ心欲を擲ち、不二の光明によつて復活新生する。世間一切の罪惡何人がその責を脱るゝを得べきとして、懺悔の心からなる十字街頭の奉仕をする。一燈園に心の庵を結ぶと雖も別に一宗を立てるにあらず單に一宗に偏るにあらず古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業――人間苦世界苦救濟の願を成就せんとするものである。この祈願に卽した實生活――もたず、うらずして人天のくやうに生きる天香師の全姿態は本書の殘らず盡す所である。

相馬御風著

大愚良寛

越後の隱聖良寛和尚の人格と藝術はその沒後百年に近き今日突如として異常の光輝を認められた著者は良寛研究者の第一人者として識者に知らる。

定價二圓七十錢 書留送料十八錢

東京日本橋通 振替一六一七

春陽堂

電話本局五一 四二一〇

早稲田大學教授 中桐確太郎著

予の戀愛觀

第八版

定價金八拾錢
郵送料拾一錢

此書の特色は現代の戀愛觀を分類批評し、田中王堂、倉田百三、厨川白村、杉森孝次郎、有島武郎、其他諸氏の所說以外、更に獨特の一新生面を開ける所にあり。著者曰く『未だ曾て、之と全然同一の所說に接したること無きが如し』と、又曰く『方今大に亂れつゝある戀愛に關する思想の整理に資することを得ん』と、以て此書の價値と、公刊の理由とを知ることを得べし。

發行所 東京京橋電話局前 小西書店

振替東京四〇〇〇番
電話京橋二二〇三

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN